

どうわの もりへ

テストは あすき?

北川幸比古・作

むかいながまさ・絵



太平けっさく童話●どうわの もりへ⑬
テストは おすき？

一九八二年 三月二五日 第一刷発行



著者 北川幸比古

画家 むかいながまさ

発行者 崔 容徳

発行所 株式会社 太平出版社

東京都新宿区弁天町一〇七 石嶋ビル

電話〇三〇四一三五(代) 振替〇東京一九九五三

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

定価はカバー・オビ・スリッパに表示してあります

913 北川幸比古

テストは おすき？

太平出版社 1982

80P 22cm

どうわの もりへ⑬

テストは あすき?

北川幸比古・作

むかいながまさ・絵





原书空白

原书空白

テストはおすき？

北川幸比古・作　むかいながまさ・絵



太平出版社

あなたは、どなた？ テストはおすき？ テストがすきなら○、きらいなら×、というわけではないけれど、夢子さんは、テストが大すきでした。

まず、テスト用紙が、うらがえしでくばられてきて、先生が、「はじめ、というまで、問題をみないこと！」

と、いつものちゅういをしている、みじかい時間がすきでした。

それから、みんながいっせいに問題にとりかかり、前かがみになったとき、ひとりだけせすじをのばし、あたりをみまわしてしんこきゆうを

ひとつして、心のなかで、

（おいついて、おいこすから！）

とさけんで、えんぴつをもつしゅんかんが、なんともいえないほどすきでした。

夢子ゆめこさんは、テストのうけかたが、じょうずでした。

はじめに名なまえをかき、つぎに問題もんだいをおしまいまでよんで、できるとおもったところから手てをつけ、できたところをよみかえてから、むずかしい問題もんだいにうつります。どうしてもわからないところは、運うんを天てんにまかせて、あつていそうな答こたえをえらびます。

しかし、いくらテストが大だいすきで、じょうずでも、いい成績せいせきがとれなかつたらつまりません。

夢子さんはそのために、学校の友だちといっしょにかよう、たのしいほしゅう塾とはべつに、とおいところにあるゆうめいなしんがく塾の土・日コースにはいりました。ピアノや絵もならっているので、夢子さんは、やすむときがなくなりました。

月よう日は、きんじよのほしゅう塾 午後五時～七時

火よう日は、ピアノ教室 午後四時～六時

水よう日は、きんじよのほしゅう塾 午後五時～七時

木よう日は、絵画教室 午後四時～六時

金よう日は、きんじよのほしゅう塾 午後五時～七時

土よう日は、いっきに勉強の時間がふえて六時間！

しんがく塾 午後二時～八時



そして、くたびれてねて、日よう日の朝がきました。六時に電話がかつてきました。

「もしもし、夢子さん、おはよう。」

「はい、おはようございます。」

「ちゃんと、早朝勉強してますね。」

「はい、先生。」

「きょうのテスト、がんばって。なにか、わからないことある？」

「だいじょうぶです。」

学校の先生は、日よう日の朝、子どもたちの家に電話をかけてきたりはしません。ほしゅう塾の先生だって、かけてきません。

電話をかけてきたのは、しんがく塾の先生でした。夢子さんのかよう

しんがく塾は、全国に教室をたくさんもっていて、日よう日は午前十時から、おなじ問題で国語・社会・理科・算数のテストをします。

テストのけっかは、コンピュータでしよりして、じぶんのこれまでとくらべてどうか、ほかの人とくらべてどうか、そのほかいろいろややこしいひょうかをいくとおりもつけて、家におくつてきます。

どうやって成績表をみたらいいのかわかりにくいので、しんがく塾では、お父さんお母さんをふくめて、成績表のみかたの説明会をしているほどでした。

先生は、その説明会の話をしました。

「きようは、おうちのかた、どなたが出席なさいますか。」

「さあ、わかりません。」

「そう。なるべくつごうをつけておいでくださって、ともうしあげて。」

「はい。」

「夢子さんがしんがく塾にはいるときのテストのけっかで説明しますから、って。わからないでいると、きょうのテストでもこれからのテストでも、成績表がよめませんから、って。」

「はい、わたしが出席してはいけませんか。」

夢子さんは、その説明会に、じぶんがでるつもりでした。

お父さんは、なんでもおもしろがる人で、どんなことでもすぐにしらべたりする人ですが、テストは大きらいでした。コンクールやコンテストや競技会や、点だの順番をつけるものはぜんぶいやだといっていて、夢子さんがしんがく塾の全国テストの話をしたときは、



「あ、からだがかゆくなってきた。」

と、いいました。成績表せいせきひょうのみかたの説明会せつめいかいにでたりしたら、かゆいのを
とおりこして、びようきになるにちがいありません。

お母さんかあは、なんでもならっておぼえるのがしゅみで、できるまでね
つちゆうする人ひとですが、テストは大きらいでした。そのため、免状めんじょうや賞
状じょうは一まいももっていません。夢子ゆめこさんがしんがく塾じゅくにはいりたいとた
のんだとき、

「おお、いやだ。おかねはだしてあげるけど、お母さんかあはつきあいませ
んからね。」

といいました。説明会せつめいかいに出席しゅつせきなどしてくれるはずがありません。早朝そうさう勉
強きやうをするように、しんがく塾じゅくの先生せんせいがときどき電話でんわをかけてくるという

のに、とくべつはやおきはしません。日にちよう日はゆびつくりねるから、おこさないでといわれていて、いまもまだ、ねています。

先生せんせいは、夢子ゆめこさんが出席しゅっせきしたいようなことをいったので、

「うーん。とくべつ講習こうしゅうは来週らいしゅうからにするか。」

といい、電話でんわをきりました。

ながい電話でんわは勉強べんきょうのじゃま、ほかの子こどもにも電話でんわをしなきゃならないというわけでしょう。

夢子ゆめこさんは、そのことはすぐにわすれて、ぱつとあたまをきりかえて、七時半じはんまで勉強べんきょうだけをしました。それから、もういつペンかおをあらって、パンとミルクとゆでたまごをへやにもちこんでたべながら、参考書さんこうしょをよみました。